

京王線の連続立体化を「地下方式」とすることに関する請願

東京都議会議長

殿

平成 21 年 月 日

京王線地下化実現の会

住所 : 〒156-0043 東京都世田谷区松原 1-32-4

電話 : 080-3413-8153

代表 沢村立彦 印

紹介議員 山口 拓
花輪 ともふみ
西崎 光子

(願意)

1. 京王線の連続立体化を地下方式で実現していただきたい。

ついては、下記内容の「構造形式比較案」を都の主導で作し、都民が公正な判断を出来るように、広く公開していただきたい。

- 今まで都が直接・間接に費用を負担した調査の詳細資料
- 比較対象は連続地下方式と連続高架方式
- 前提条件を明確にした費用概算と明細
- 各案における重要な問題点のとりまとめ

(理由) 地下方式とした場合、以下のとおりの利点がある。

① 総工事費の軽減

高架方式に比べ、側道に供する用地の確保面積が少ないので、**土地収用コストが低くなる**。地下化の本体工事費のコストが高くとも、総工事費では地下化の方が低くなるか同じ程度になる可能性が高い（小田急線の下北沢区間の地下化で実証済み）。区分地上権の活用により、立ち退き対象となる用地を減らすことができ、土地収用コストを節約できる。

② 工事期間の短縮

用地の確保面積が少ないことは、**工事期間の短縮**につながる。さらに、高架の場合に発生する可能性が高い反対運動による用地買収の遅れが引き起こす工期の長期化が避けられる（小田急線の梅が丘一祖師谷大蔵間の事例を参照）。

③ 京王線沿線の緑化

「京王線沿線街づくり基本方針（案）〔平成 21 年 2 月世田谷区制定〕」に謳われている「京王線沿線の緑化を促進し、みどり豊かで潤いある住環境の整備に取り組む」との方針に沿って、**閑静な低層住宅地の保全**とともに**京王線沿線の緑化**が実現できる。

④ 災害時の避難・帰宅路の確保

首都直下の大地震が発生した場合に、緑化した京王線地上部分は、**東西方向の避難・帰宅経路**となる。また、高架部分が無ければ、南北方向の避難・帰宅移動の障害になることがない。

⑤ 環境悪化・健康被害の解消

高架完成後の鉄道騒音や鉄粉飛散などの**周辺環境への悪影響**が生じないので、閑静な低層住宅地である沿線地域の資産価値を毀損しない。 以上